

分析シート

() 学校 () 年
氏名 () 男 ・ 女

分析例 **D** 図書室や体育館などに移動するときに、
クラスのみならず一緒に行動できない

記入日 () 年 () 月 () 日 () 曜日
記入者 ()

「状況把握」、「理解・実践」、「ふりかえり」の順に進みながら、子どもたちにできる支援を考えていきましょう。

状況把握

「子どもが苦戦した場面」を見つけたら、その子自身が「どんな状況にあるのか」を詳しくチェックしてみましょう。

観察チェック①では、発見した「苦戦した場面」そのものを挙げ、

観察チェック②では、その子を取りまく環境、その子自身の状態について振り返ります。
(①での気づきも含めましょう)

観察チェック③では、何がこの子の課題なのか、気になるところはどこかを見つめ、印をつけます。
(重要度によって、◎、○など使い分けてもいいです。)

観察チェック①

苦戦した場面

図書室や体育館などに移動するときに、クラスのみならず一緒に行動できない

分類		チェックの結果
起こった状況	いつ	みんなと一緒に移動するとき
	どこで	校内
	だれが(だれと)	本人
	周りの状況、様子	クラスの児童が移動のために廊下に並び、ざわざわしている
	起こる頻度	移動の度にほぼ毎回
	他の気になる状況、様子	気持ちの切り替えができず、次の行動に移れない
子どもの状態	目に見える状態	廊下に並ぶよう声をかけても、かたくなに並ぼうとしない
	予想される心理状態	自分の行為を中断させられることに不満を持っている 指示された言葉の意味がよくわからないため、困っている

観察チェック②

観察チェック③

分類			チェックの結果		これまでの結果を見て特に気になる点(◎、○など)
環境	家庭	人的	親子、兄弟姉妹関係 母親は配布物が家庭に届かないことを心配している	➡	
		物理的	住居	➡	
	学校	人的	教師、友人との関係 「手を貸して」と言われると、手を差し出すなど、言葉を字義どおりに解釈するため、誤解やトラブルが多い	➡	◎
		物理的	学校環境	➡	
	地域	人的	地域の人との関係	➡	
		物理的	地域の環境	田や畑が多い	➡
	社会	地域、地域・学校外の所属機関(チーム、習い事なども含む)	学習塾に通っている	➡	
	自然	子どもが苦戦しやすい時間帯、季節、天候	暑いときは落ち着きがなくなり、離席が目立つ	➡	○
発達	身体	身体全般の発達(不器用さ、感覚の問題など)	不器用で、工作をしたり、プリントをきちんと折ったりすることが苦手である	➡	○
	心理	情緒(不安定、感情の起伏などの心の発達状態)	行事があると、興奮気味になり、おしゃべりが多くなる 課題が終わるまでやめられない	➡	◎
	社会	コミュニケーション、社会性の問題	一方的に自分の言いたいことを話すことがある	➡	○
	学力・思考力その他	できること、できないこと、その他(体力、芸術等)	学力は学年相当で、いろいろなことを知っていてよく発言する 配布物やプリントをなくしてしまうことが多い	➡	

次は、③でチェックされた気になる行動を改めて書き出してみましょう。



理解・実践

観察チェック③でチェックした特に気になった部分を、観察チェック②からそのまま抜き出しましょう。それが、その子の課題につながります。

子どもがかかえている「課題」を明確にし、なぜ課題をかかえているのか、そうなるのか「仮説」を立てます。

仮説をもとにして、課題が改善できるような「手立て」を考えてみます。手立ては、具体的なものを思いっくだけあげましょう。

さらに、実際の生活の中でできる実践の「方法」「期間」を設定して取り組みます。

観察チェック③でチェックした、特に気になった点を②から改めて書き出してみましょう。

<観察チェック③から>

- ・課題が終わるまでやめられない
- ・言葉を字義どおりに解釈するため、誤解やトラブルが多い
- ・普段と違う出来事があると、自分の気持ちが抑えられない
- ・不器用である

その子は、なぜそのような行動をとってしまうのでしょうか。本人はどんな課題をかかえているのか、なぜそうなるのか、仮説を立てましょう。

<抱えている課題>

- ・こだわり、感情の起伏があることから、集団行動が苦手である
- ・指示された言葉の意味や例え話がわからないことがある

<仮説>

- ・自分がやっていることを中断できない
- ・言われた言葉をそのまま受け止め、混乱する→けんかやトラブルになる

仮説をもとに、具体的な手立てを考えて、実践してみましょう。

<手立て>

- ・今やっていることが中断できず次の行動に移れないときには、後で続きができることを約束する
- ・移動の指示をわかりやすくする
- ・並ぶ場所をわかりやすくする

<実践（期間）>

- ・約束した時間に、続きができるようにする（1か月間）
- ・短く、具体的な言葉の指示にしたり、絵や文字で指示したりする（1か月間）
- ・ロッカーにシールなどで印をつけて並ぶ位置を教える（1か月間）

ふりかえり

実践が有効だったかふりかえりましょう。

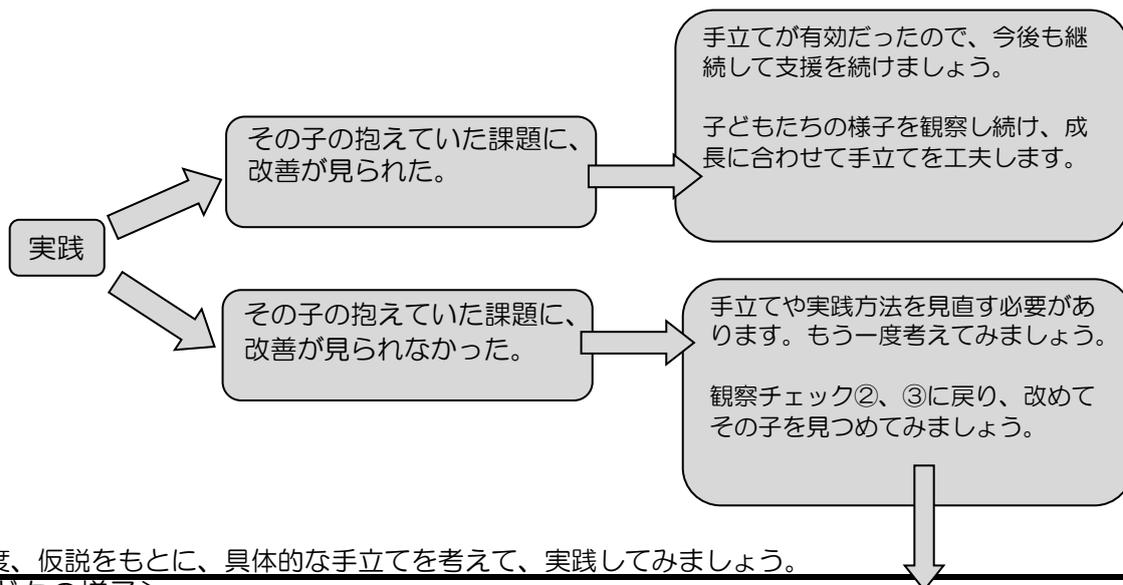
課題が全面的に改善されたのか、一部改善されたのか、方法・期間は適当だったかなど、考えてみましょう。

手立てや実践方法を見直す場合は、はじめの「観察チェック②、③」「仮説」などに戻り、その子を見つめ直してみましょう。

<ふりかえり>

- ・ 続きの時間が保証されていることを話すと、みんなと一緒に行動できることが増えてきた
- ・ わかりやすく提示された指示を見ながら、行動するようになった
- ・ 並ぶ場所について、不安になることがなくなった
- ・ 列に並ぶときに、人との距離感がとれず、近づきすぎたり遠すぎたりすることが多い

<考察しよう>



再度、仮説をもとに、具体的な手立てを考えて、実践してみましょう。

<子どもの様子>

- ・ 並ぶときに、人との距離感がとれないことで、友だちとトラブルになることがある

<今後の手立て>

- ・ その都度、並ぶときは肘から手の先まで伸ばした腕がぶつからないところまで下がることを教える
- ・ それ以外の場面でも言葉の意味することを教える

<その後の実践結果>

- ・ 並ぶときのトラブルが少しずつ少なくなっていき、友だち関係が良好になった
- ・ 作業の続きの保証をすることや言葉の意味をわかりやすく提示することを継続して行った